

平成29年度つながる事業 第2回報告相談会概要

日 時	平成29年10月31日（火）午前10時00分～午前11時00分
場 所	美濃加茂市生涯学習センター401号室
参加者	<p>■ふるさと愛好会（代表・渡辺さん、副会長・西村さん、会計・則武さん）</p> <p>■選考委員 原 美智子 委員長</p> <p>■アドバイザー 伊藤 慎悟 氏</p> <p>■事務局（佐合係長、村雲、川上）</p>
内 容	（発言は要約です）
	<p><報告事項></p> <p>▼【7月】鬼飛山の太谷池で、隧道を発見しました。調べてみると大正元年（1912年）頃に岩盤を手掘りで掘削したもので、GPSで測定したところ高さ約1.2m、長さが53mあることがわかりました。これは太谷池の泥抜き用に作られたもので、農業・産業遺産として残すべきだと思い、会で整備を進めています。</p> <p>▼【8月】太谷公園駐車場の斜面にアジサイを100本植えました。もとは竹林だったため、土が硬くて土壌は良くありませんが、アジサイならば育つと思い、成長を期待しているところです。</p> <p>▼【8月～9月】芝桜植栽場所（太谷堤）に、作業用とその危険防止のために丸太の階段を設置しました。この丸太は平成26年度に県の補助で太谷山を工事した際に伐採された木（※）を活用したものです。</p> <p>※県の森林環境税を活用した伐採工事によって出た木材。</p> <p>▼【8月～10月】芝桜植栽場所（太谷堤）に、新しく芝桜を植えるため、土が流出しないように竹で土止めを設置しました。材料は近くの竹林所有者の協力を得ることができました。</p> <p>▼【9月～10月】台風襲来によって生じた倒木や、落ち葉等の除去作業を行いました。倒木は堅いアベマキなどの樹木であったため、チェーンソーの刃が予想以上に消耗してしまいました。まだ処理が残っているので、予算の範囲内で購入したい。⇒（事務局返答）消耗品の予算内で対応いただきたい。</p> <p>▼【10月】鬼飛山の登山道の整備を、町・県・当会共同で行いました。階段とベンチを設置し、様子はCCNetでも放送されました。</p> <p>▼地元小学校（川辺小、川辺北小、川辺東小）からの依頼で、生徒の八坂山登山を支援しました（西小と東小の登山の様子が、本日CCNetで放送されます）。また、10月には愛知教育大学の学生が12名も登山に来てくれました。せっかくながつながった縁であるので、今後も良好関係を築くことで、若い力の協力を得られるようにしたいと思っています。</p> <p>▼10/22に予定していた、ライオンズクラブとの芝桜植栽活動は、台風の影響で11/8に変更することにしました。それによって、川辺中学校と三者協同で実施することになりました。</p> <p><今後の活動></p> <p>▼隧道の整備活動では、土砂に埋もれている部分があるので、将来的に登山に訪れた人が見学できるようにしたいと考えています。</p> <p>▼鬼飛山の整備（町事業）の支援として、案内看板の設置を予定しています。</p> <p>▼太谷山の休憩所建設（町事業）の支援として、資材の運搬等を予定しています。工事は年度末ま</p>

で行われるそうです。

▼今後も教育委員会、学校、地元企業と連携を図っていきたいと思います。

▼散策道の整備と安全確認は、今後も続けたいと思います。

▼行政との連携をもう少し強くし、情報発信を強化したいと思います（年1回程度しか広報にとりあげてもらえない）※今年度は、広報かわべ7月号に西小学校八坂山登山が取り上げられました。西小学校だけしか取り上げてもらえなかったので、各学校のことも取り上げてもらいたいです。

▼みのかも市民活動サポートセンターとの連携によって、活動への理解と協力を得られる関係づくりを行っていきたいと思います。

<つながる事業卒業後の活動と組織体制について>

▼この活動は広範囲かつ教育・産業・土木が絡むことから、町に必要な事業であると考えています。そこで、来年度では町側で予算を確保してもらおう事を要求しています。先日、代表がまちづくり課の課長へ話をしに行ってきました。

▼組織の若返りのためにも、若い人材の入会を期待しています。現在、2名の大学生から入会したいと声を掛けていただいておりますが、学校と活動日の調整が難しく、実働的なメンバーには成り得ていません。ただ、組織として若い人が入ってくれることは精神的に良いことから、彼らにはその旨を伝えているという状況です。

<選考委員・アドバイザーとの意見交換>

(伊藤氏)

各作業のスケジュールはどのように決めているのですか？

(団体)

山道の安全確認を早朝に山ガール(団体副会長を中心とした登山者)が行い、異常が見つければ、会長(団体代表者)へ電話連絡するようにしています。その後の処理は、当日行うこともあれば日を改める事もあります。急な作業や依頼は1週間前に各メンバーへ電話連絡し、参加できる人で対応しています。学校行事も基本は2週間前に日程が決まる状態で、そこからメンバーに連絡をし、対応しています。

毎年行っているような通年作業や、予め作業が決まっている事項については、総会の時に大まかな作業月を伝えています。

30名のメンバーがいますが、実質は20名程度で作業を分担し、対応しています。

(団体)

つながる事業では整備に必要な備品・資材を購入できたので良かったのですが、これからは維持管理していく事の大切さを自覚しています。ですが、我々だけの力では、鬼飛山のような大規模な改修は不可能です。町と連携し、資金的な援助をしていただけるような形で今後も活動していきたい。

美濃加茂市が行う鬼飛山の整備では、その後の維持管理はどこが担うのでしょうか？それが行政にせよ地域にせよ、協力して一緒に維持管理が出来ればと思っています。

(原委員長)

芝桜の植栽場所は、「せせらぎ街道」のように、植栽場所に道を作って花の中を歩けるような工夫があると、賑わうのではないかと思います。また、隧道についても、水を張って水遊びができるようになると良いですね。

(団体)

作業用に丸太階段を組みましたが、人に歩いてもらう事は想定していませんでした。しかし、植栽場所は写真では分かりづらいですが、かなりの傾斜があります。気軽に入ってもらうのは少し難しそうです。

隧道については、これからそういう整備ができればと思っていました。私(渡辺代表)は子どもの頃、実際に隧道で遊んだ経験があります。今回見つかった隧道は、当時の人々の苦勞がよく分かる遺産だと思っています。現在において、岩盤を手掘りで掘れるでしょうか？ その大変さは今も昔も変わらないと思いますが、昔は岩盤を手掘りする以上に、この地域の水害が酷かったのだということでもあります。こういった苦勞の上に今がある事を、伝えたいと思いました。

(原委員長)

今後の収入の手段として、町からの支援を受けたいとのことでしたが、本当にそれしか方法はないのか、今一度模索してほしいと思います。それは、この「つながる事業」が自立へ向けた支援であることもそうですし、世の中には寄附をはじめとした色々な収入の得方があるので、その道も探してほしいのです。

(団体)

正直、自分たちが出す会費だけでは会の活動が賄えない現状です。例えば、私たちの活動で、活動時の水分補給は欠かせません。飲料1つにしても、参加人数や回数を重ねれば、年間の消費量は半端な数ではありません。ただ、ライオンズクラブをはじめとした、一緒に活動を行う企業が協力的で、例えば活動時に飲料を提供してもらえるようになりました。このような関係はこれからも続けていきたいと思っています。

(原委員長)

山は境が無いので、圏域的(広域的)な事業としてとても良い取り組みだと思います。しかし、維持管理にも費用が掛かります。行政に頼ることだけではなく、行政以外で収入を得られるようにしていただきたいのです。この活動では様々な自然、歴史が含まれています。そういったものにストーリーを付けて、例えば三山をめぐるスタンプラリーなどのように、「見る」「体験できる」ことを、訪れる人に楽しんでもらうことで、人を呼び込めると思います。そうすれば、募金を得られる機会を増やすことにもなると思います。

(団体)

寄附については、登山道に賽銭箱を設置しているのですが、破壊されて盗まれるということを繰り返しています。イベントを打って募金をお願いするのは良いと思いますが、イベントを開催するにも費用が掛かります。

折しも今年の3月に、川辺町が主催した「ツツジ祭り」に協力をしたのですが、行政との連携が出来たと思います。私たちも、活動経費分はどこから援助してもらうことの大切さは分かっています。町の協力を得るためにも、私たちの活動に目を向けてもらう工夫をすることが、今後は大切だと思います。

(伊藤氏)

以前にも話したように、収入が無ければ活動を続けられません。この事業は社会貢献、ボランティアという分類になるとはいえ、今の世の中は毎年30万もの企業が倒産していく世の中です。この活動を続けていきたいのならば、活動にふさわしい収支と、それを担う次世代を得ていくことが必要です。

個人的にも、とても尊い活動であると思いますが、「続ける」も「辞める」も決めるのは皆さんです。ボランティア色が強いからこそ、残りの期間の中で、この会をどんな存在にしたいのかをよく考えていただき、その答えを聞かせていただければと思います。

(ふるさと愛好会 終了)

日 時	平成29年10月31日（火）午前11時00分～午前12時00分
場 所	美濃加茂市生涯学習センター401号室
参加者	<p>■犬育応援プロジェクト ワンコミ（代表・田原さん、メンバー・堀さん）</p> <p>■選考委員 原 美智子 委員長</p> <p>■アドバイザー 伊藤慎悟 氏</p> <p>■事務局（佐合係長、村雲、川上）</p>
内 容	<p style="text-align: right;">（発言は要約です）</p> <p><報告事項></p> <p>▼【7月・10月】フリーペーパー歩好里人の夏と秋号に「ワンコミかわら版」を掲載しました。</p> <p>▼【8月】子ども向けのワークショップ「ワンコミ講座～防災新聞を作ろう～」を、中山道会館で開催しました。台風のため8/8から8/18への変更となりましたが、8名の子どもたちが参加してくれました。</p> <p>▼【8月】8/30に試験がある「防災リーダー育成講座（防災士資格）」に、代表（田原さん）が参加し、無事に合格できました。現在は減災講座等に参加し、スキルの向上を図っています。</p> <p>▼【9月】9/3に可児市の臈ヶ丘自治会で開催した、同行避難訓練に参加してきました。</p> <p>▼【10月】9月に予定していた熊本視察は、相手方との調整で10/12になり、被害の多かった地区にある「動物愛護センター」と、ペットの受け入れを率先して行った「竜之介動物病院（※）」へ、2名で視察に行ってきました。そこで当時の様子や現状をお尋ねしてきました。</p> <p>（※補足）熊本市中央区にある動物病院。ペットの同行避難の受け入れの他に、震災で負傷したペットの治療などを行っている。熊本地震時には200人を超える受け入れを自主的に行った。</p> <p>▼【10月】10/29に、美濃加茂市の地区の防災訓練で、同行避難ブースを出展する予定でしたが、台風の影響で防災訓練自体が中止となってしまいました。</p> <p><選考委員・アドバイザーとの意見交換></p> <p>（原委員長）</p> <p>まず、不慣れだということを承知で厳しいことを言わせてください。今、見せていただいている資料を、整えてからご報告いただきたかったです。例えば「誰が行ったイベント」なのか、「誰から聞いた話」なのか、主語や立場が分かりづらい資料で、今何の話をしているのか、理解する間に別の報告を受けている状況でした。これでは、せっかくやったことが伝わりません。この場はそれを共有する時間で、ちょっとしたことで共感を得ることが出来るのですから、書類を整える事を意識されてください。</p> <p>ではそれを踏まえて、もう少し踏み込んでお尋ねしますが、臈ヶ丘の訓練は、貴団体が主体で行ったものでしょうか？</p> <p>（団体）</p> <p>いえ、可児市臈ヶ丘の同行避難訓練は、臈ヶ丘自治体が行ったものです。まず、今年になって可児市の環境課が「ペットの防災マニュアル」というものを作成しました。これを受けて、その年度に可児市内で行う防災訓練のメニューの中に「ペットの同行避難を行う」という項目が追加され、それを選んだのが臈ヶ丘自治会でした。この自治会は防災に関する意識が高く、防災士の資格を取得している方もいるようです。自治会が行った事前アンケートによって、ペットの飼い主と飼って</p>

いない人の意識調査と、当日にペットを連れてくる人の希望調査を行い、実施されました。

当日は、私たち2名で見学という立場で参加させて頂いていたのですが、訓練に来た環境課職員が1名しかおらず、結果的に私たちもスタッフのように手伝うこととなり、「被災時はこのような檻にペットを入れる」「これだけの備品が必要」などの話をしました。いきなりのことで大変でしたが、一人でも多くの人に伝えられてよかったです。

ちなみにお手元の資料は、可児市から頂いた報告書で、代表（田原さん）が可児市在住で可児市の防災安全課へ時々顔を出していたことから、この話を耳にし、見学に行く運びとなりました。

（原委員長）

分かりました、ありがとうございます。今のような苦労した話は、活動においてとても大切なことです。先ほど申し上げたように、少しのことで人の共感を得ることが出来るのですから、こういったことを大切に伝えて行けると良いと思います。相手に伝わるよう伝えていく事を、意識していただきたい。

次に、熊本への視察についてですが、もう少し詳しく教えてください。

（団体）

代表の田原と堀の2名で、日帰り熊本空港から市内を回りました。

（原委員長）

熊本空港からですか？ 福岡からの方が、利便性が良いような気がします…。

（団体）

そうですね。実はそれに気付いたのがチケットを取ってしまった後で、キャンセル料もかかってしまいますし、今回はこれでいく事にしました。計画通り日帰りでの視察となり、朝8時に出発する便に乗り込んで、その日の最終便で帰ってきました。

先に竜之介動物病院へ向かい、11時頃から2時間近く話を聞いてきました。竜之介動物病院は、病院と隣接している学校があります。これは、「災害時に学校の空き教室が、同伴避難の受け入れ施設になる」という医院長の信念から作られた施設だそうです。

医院長の話で衝撃的だったのは、「同行避難よりも同伴避難できる施設を、どこか1つでも作った方が良い」ということでした。今の世の中、ペットを飼っている人の多くは、その存在を生きがいにしている人がたくさんいます。そんな中、熊本の震災では、ペットが死んでしまうことや、ペットと離れる事自体がストレスとなって、飼い主が精神的に衰弱してしまうケースがたくさんあったそうです。そうしたことから、医院長は同行避難よりも同伴避難（※）の方が良い、との意見を提唱されていました。こういった受け入れ施設の設置は、民間だからこそ可能な方法だと思います。美濃加茂市で実行するには、どこかの企業とタッグを組む必要がありますが、いざというときの備えの1つにできたら、と思いました。

（※補足）同行避難と同伴避難の違い

◆同行避難・・・同行避難可能な施設において、ペットはクレート（檻）に1体ずつ入れられ、ペット専用の部屋に隔離される。

◆同伴避難・・・同伴避難可能な施設において、原則的にペットと飼い主は同じ場所で寝食を共にできる。

次に午後2時くらいから動物愛護センターへ行ってきました。ここでは当時のペットの様子などを聞いてきました。この施設は、田原代表が岐阜県の動物愛護推進委員をしている関係で、岐阜県の動物愛護センターとつながりがあり、その縁で施設の存在を知りました。大きな施設なので岐阜県の動物愛護センター経由で依頼をしようかと思っていたのですが、最終的に団体が直接交渉し、視察を実現する運びとなりました。

昼食すら食べる時間も無いくらいハードな日程でしたが、希望した施設からリアルな現状を知ることが出来、貴重な体験となりました。

(伊藤氏)

中止となった美濃加茂市の防災訓練は、実施するならどのような訓練になる予定だったのでしょうか？

(団体)

美濃加茂市では、地区単位で防災訓練を行っています。自宅から一時避難場所へ移動する「一次避難訓練」、一時避難場所から小学校等の施設へ移動する「二次避難訓練」という段階があり、最終移動先である小学校でブースを出すことを予定していました。このブースでは、被災時に必要な備品がどれだけあるかということや、「同行避難」という言葉を知ってもらうことを主目的に、啓発活動をしたいと思っていました。可児市の訓練を見学した経験から、地域の飼育状況を踏まえてアンケートを取る事の大切さを学んだので、この訓練用にアンケートも準備していましたが、実施できなくて残念です。

今回は下米田地区に協力していただきましたが(佐合係長が下米田地区の防災訓練実行委員の関係者で、協力していただいた)、毎年違う地区を周り、美濃加茂市全域へ広める予定です。

(伊藤氏)

熊本への視察を終えて、行く前と行った後でどんな変化がありましたか？

(団体：田原さん)

心境はかなり変化がありました。私たちの活動は「同行避難」という単語からはじまっています。しかし、その先進地である熊本では「同行避難は難しいことだ」ということを教わりました。私たちの想像以上に、同行避難による問題(アレルギーやおい等の他、精神的苦痛など)は深刻でした。同時に、ペットロス(死なせてしまう、隔離されてしまう等)による精神的苦痛によって、飼い主自身が二次被害に遭う事を知りました。それらを考えると、同行避難の啓発が必ずしも正しいとは限らないのでは、と思い至りました。

今回の視察を終えて、同行避難の難しさや、同伴避難が人に及ぼす効果を知ったことで、今まで無責任に「ペットのために同行避難をしましょう」と言ってきたことに対し、複雑な気持ちになってしまいました。

(団体：堀さん)

私も代表と同じような心境です。やはり割合的にはペットを飼っていない人の方が多く現状で、歩み寄りの限界が「同行避難」なのだと思います。行政が「同行避難」を推進するのは、そういった理由だと思います。

私たちは今まで、同行避難が避難時の常識だと思っていました。しかし、熊本での話を聞き、ペットに対してもさながら、何よりも飼い主にとってペットと離れるのは精神的にとっても良くない環境になることを聞き、同伴避難の効果の重要性を学びました。私もショックを受けましたが、聞いて良かったと思います。

そして感じたのは、今までの「同行避難」を切り口にした正しい飼育方法への啓発は、マイナスな効果だったのではないかと思います。隔離することを前提とした躰の啓発を呼びかけるよりも、「同伴避難ができるよう（一緒に避難できるように）に日頃から躰をしましょう」と呼びかける方が、きっと飼い主に受け入れやすいのではないかと思います。

ただし、「同行避難」の啓発も、犬を飼っていない人に対する啓発として、とても大切であると思います。

(原委員長)

動物が好きな人も苦手な人も、共生するためのあるべき姿である「将来像」はきちんと描いていますか？ 両者が共生できるビジョンを持ち、それを啓発していく事がこの取り組みで大切なことです。

このような活動をしていると、「ペットを飼っていない人には分からない！」「ペットを飼っていない者の気持ちをわかってくれない！」などのように、お互いをなじったり拒絶したりしてしまう例が出てきてしまいます。いずれにせよ、最初も最後まで結局は人間同士の歩み寄りですから、共生のためのビジョンが実現できるストーリー（道筋）を作っていくってほしいと思います。

そのために、冒頭で申し上げたように、相手に伝わらなければ活動の意味がないですし、貴団体は両者の橋渡し役でもあるので、「伝え方」や「働きかけ方」の方法を磨いていってください。

(犬育応援プロジェクトワンコミ 終了)